

リサーチグループ登録届出書

平成 27 年 2 月 13 日

1. リサーチグループの概要

リサーチグループの名称 スマートソーシャルシティ

リサーチグループの名称(英語) Smart Social City

分野 (1.人文系、2.理工系、3.生物系、4.複合系) 4

設置開始時期 2015 年 3 月

設置終了時期 2020 年 3 月

2. リサーチグループ代表者

所属・職名 図書館情報メディア系・助教

氏 名 関 洋平

氏名(英語) Yohei Seki

3. 連絡先

所属・職名 図書館情報メディア系・助教

氏 名 関 洋平

電 話 029-859-1399

F A X _____

E - m a i l yohei@slis.tsukuba.ac.jp

4. 担当部局 (当該リサーチグループの運営等を管理する部局名)

図書館情報メディア系

5. 構成員一覧について

| 氏名 | 所属部局 | 職名 | 専 門 | 学位 | 役割分担 |
|-------|----------------|-----|--------|-------------|----------------------------|
| 関 洋平 | 図書館情報 メディア系 | 助教 | 自然言語処理 | 博士 (情報学) | 研究総括 |
| 宇陀 則彦 | 図書館情報 メディア系 | 准教授 | 知識情報学 | 博士(工学) | 図書館に おける 社会実装 |
| 高久 雅生 | 図書館情報 メディア系 | 准教授 | 情報科学 | 博士 (情報学) | Linked Open Data の構築 |
| 佐藤 哲司 | 図書館情報 メディア系 | 教授 | データ工学 | 博士(工学) | アドバイザー |

共通様式③

| | | | | | |
|---|------------------------|---|--------------------|-----------------|-----------|
| 6. 科研費細目番号 | 主なものから順番に3つまで記載してください。 | | 1303A | 1302A | 1204 |
| 7. キーワード(5つまで) | ソーシャルメディア | スマートシティ | 意見分析 | サービスサイエンス | オープンデータ |
| 8. キーワード(英語) | Social Media | Smart City | Sentiment Analysis | Service Science | Open Data |
| 9. 研究グループ HP | URL を記載してください。 | http://cu.slis.tsukuba.ac.jp/~seki/ssc.html | | | |
| 10.研究グループ概要(1000字程度) | | | | | |
| <p>ソーシャルメディアやオープンデータを活用することで住民との積極的な交流を図り、行政サービスの向上を目指すことは、行政機関にとって解決すべき社会的課題である。本リサーチグループでは、Twitter やブログにおいて広がる意見や経験を収集する枠組みを定式化することで、行政機関で得たいと考えている市民による生の声を獲得する。また、行政サービスに対する意見の体系化を進め、行政機関が意見を収集するための体系を提供する。さらに、市民に行政機関の比較情報を提供することや、積極的に意見を発信する市民を行政機関に推薦することにより、行政機関と市民とのコミュニケーションを支援する。</p> | | | | | |
| 11. 研究グループ概要(英語) | | | | | |
| <p>Big social data, such as blog or Twitter, and administrative open data are available as research resources to clarify potential needs. One important issue with social and open data is to promote collaboration between administrative officers and citizens. This study provides a framework for collective potential citizen sentiments and real life experiences from social media and crowd sourcing services to improve administrative services. In addition, we plan to support communication between administrative officers and citizens by recommending active citizens and providing administrative officer evaluative criterion.</p> | | | | | |

12. 設置の目的及び必要性

最新の科学研究として、社会的な幸福（ウェルネス）を追求するために、世の中にあるソーシャルデータやオープンデータをどのように活用して、専門家以外の市民を巻き込みながら、イノベーションを起こすか、新たな取り組みがスタートしている。その中でも、まちづくりを対象としたソーシャルシティに関する取り組みは、行政サービスの利便性向上、経済活動の活性化、安心・安全性向上、公共インフラ・サービスの効率的運用管理などを目的として、地域の持続的な繁栄の実現を目指している。本リサーチグループでは、行政機関（現段階はつくば市役所）と協力することにより、Twitter等のソーシャルメディアやオープンデータを活用することにより、まちづくりにどのように活用することができるかこれまでにない新たな研究を進めるリサーチグループである。

13. 研究計画

本リサーチグループでは、行政機関の公式アカウントと、ソーシャルメディア上のユーザとの緩やかなやりとりを分析し、効果的な情報の発信方法を明らかにし、行政サービスの改善につながるコミュニケーションを支援することを目指す。具体的には、以下の2つの研究を進める。

1. 行政サービスの評価分析のための意見の体系化

- Twitter等において広がる意見を対象として、意見のタイプを体系化することで、行政機関が必要とする住民の意見を分類して整理する。
- 意見の体系は、情報処理学会において、ワーキンググループを立ち上げ、自然言語処理、図書館、言語学、企業の専門家により妥当性について検証する。
- 行政機関のサービスの比較評価を提供することや、積極的に意見を発信する市民を推薦することにより、行政機関と市民との協業を支援する。

2. 情報発信とシティプロモーションに関する効果の分析

- 行政機関が主催するイベントにおいて、行政機関により発信された情報に対するフィードバックとなるコメントを分析することで、ツイッター上での多くの発言を誘発する事柄を明らかにし、今後の情報発信への活用をはかる。
- 1の体系も踏まえつつ、Twitterやブログにおいて、行政機関の地名を含む投稿を収集し、分析し、市民等の本音を理解する。また、獲得した市民の意見を踏まえた情報発信等のプロモーション展開について研究を進める。

14. 研究・教育に期待される効果（箇条書き）

1. 行政機関が住民の意見を分析する技術を実現することで、行政機関と住民との交流を積極的に推進する仕掛け作りが可能となる。
2. 2020年に開催予定の東京オリンピックに向けて、ソーシャルメディアから発信される治安情報の収集や外国人視点の要望・意見等に、適切に対応できる。